

偏見のない世の中に

中 二

私の祖母と祖父は、障害者一級です。二人とも、私が幼い頃に突然体が不自由になってしまいました。歩くのにつえを使うようになりましたが、幼い頃の私から見ても大変そうので、転倒することもひんぱんにありました。でも、懸命のリハビリのいかいもあってか、何年か経つと、二人とも日常生活はなんとかできるようになっていました。祖母に至っては、リハビリの当初は全く動けなかったのに、徐々に動かせるようになった左手だけを使って、料理・洗濯・掃除などの家事もできるようになっていました。

そんなある日、祖父母の家を訪ねて、一緒に出掛けました。ところが、出掛けた先でのことです。道の段差で、祖母が転倒してしまいました。私と母で祖母を起き上がらせて、また歩き始めようとしたそのとき、近くにいた女子高校生らしい人たちが、私たちのほうを見て笑っているのに気がつききました。

そのうちの一人は、

「やめなよ。」

と言いながらも、顔が笑っていました。それに続けて、その隣の人が、

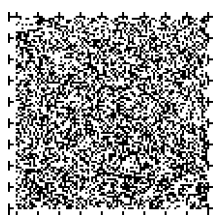
「あの人、障害者っぽいけど家事とかどうやってんのかな。どうせ、他の人にやらせていそうだね。」

と、はじめに笑った人に話しかけていました。話しかけられた人も、

「そうなんじゃないの。障害者だから人に世話してもらって楽しんで暮らしてるんでしょ。」

と答えていました。そして、その人たちはどこかへ行ってしまいました。

その会話を聞いて、私は、とても悲しくてショックを受けました。おそらく彼女たちは、祖母のことを知らないからそんなことが言えたのでしょうが、一方で何も知らないのに言うのもおかしいと思いました。障害者だからとか、障害者ってやっぱり……のように、勝手に決めつけるのは間違っていると思います。毎日一生懸命努力し、頑張って生きているのです。



それを笑うなんて絶対にしてはいけない、とその時に強く感じました。

なにも障害者に限ったことではないのですが、見えないところでたくさんの努力をしている人も世の中にはいるのです。思いがけず言ったひと言で相手を傷つけたり、祖母のように何事にもくじけず努力している人を笑ったり、ばかにしたりすることなんて誰にもできないと思います。

彼女たちは、祖母のことを、障害者だからといってばかにして笑っていました。それでいいのでしょうか。困っている人がいたら、手を差し伸べることが当たり前だと思います。私は、思いやりをもつ人や心配りのできる人が増えてほしいです。そして、私自身も、困っている人に手を差し伸べていきたいです。困ったり傷ついたりする人が減って、あたたかい世の中になれば、だれもが幸せを感じると思います。

